

職場紹介

葵会仙台病院の紹介

葵会仙台病院 看護部長 認定看護管理者 佐藤 愛子

葵会仙台病院は全国に140以上の関連事業所を展開している葵会グループのひとつで、平成29年12月に2つの病院を統合して、若林区荒井に新築移転しました。障害者病棟80床と回復期・リハビリテーション病棟45床を有しております。

当院は、急性期病院での治療を経て回復期、リハビリ期に入った患者さんをおもに受け入れ、治療の継続と充実したりハビリを行うことにより、早く元の生活に戻れるように支援するような病院です。患者さんは、疾患の特徴から長期療養を必要とし、自分で意思を伝えることが難しく、日常生活行動を自分で行うことが困難な方が多くおられます。そのため看護師には、患者さんの生活の質に目を向け、疾患を抱え、また障害を持ちながら“どう生きたいのか”を共に考え、患者さんやご家族の状況を多角的にアセスメントする力が必要になってきます。そして、意思決定支援や日常生活支援、治療の実施等において、人々の生活を支えるという「看護の力」が期待されるとともに発揮できる場となっております。

看護部が目指しているのは、患者さんに寄り添い、個別性を尊重した患者中心の看護を提供すること、専門職として責任ある行動をとることです。そのために、「優しく思いやりをもつこと」「提供する看護に根拠をもつこと」「倫理観や判断力を養うこと」と考え、教育に力を入れております。

看護師・介護職のキャリアラダーを構築し2019年よりキャリアラダーを取り入れた教育体制をスタートしております。当グループの看護学生の卒業に合わせ、新人・2年目・3年目教育と力を入れてきました。その人に合わせて成長できるような教育体制になっており、卒業生も着実に成長しております。また、4年目以降も充実した教育体制になっております。

今後も患者さんや家族に寄り添い、自分の大切な人を安心して任せられる病院・看護部となれるよう教育に力を入れていきたいと考えております。



お知らせ

令和5年度 宮城県看護協会 仙台南支部 通常総会のお知らせ

日時 令和5年5月20日(土)10:00 予定
場所 宮城県看護協会研修センター 予定

編集後記

コロナ禍により活動制限される中、今だからこそ共有したい情報も数多くあると思います。支部活動を通して知り得た情報が、今後課題に取り組む糧となり、一緒に考えていければと思います。仙台南支部だより75号を発行するにあたり、ご協力いただいた皆様へ心より感謝申し上げます。

広報委員一同



第75号
発行所 (公社)宮城県看護協会
仙台南支部
事務局
仙台市青葉区五橋1-1-5
JR仙台病院
TEL022(380)2373
印刷所
KAMADA PRINT

ご挨拶

JR仙台病院

宮川 裕子

今年度より仙台南支部の支部長を務めさせていただいておりますJR仙台病院の宮川です。どうぞよろしくお願い致します。仙台南支部会員の皆様方には支部活動へのご理解とご協力を受け賜わりまして深く感謝申し上げます。仙台南支部には約1800名を超える会員がおり、12支部の中で3番目に大きな支部です。昨年度までは新型コロナウイルス感染症の影響により支部活動の自粛や中止を余儀なくされておりましたが、オンラインの活用等、新たな形を取り入れながら活動を実施してきました。今年度はコロナ禍3年目となり、感染状況を見ながら活動の再開を計画していました。しかし、第7波の影響により、「まちの保健室・若林区民祭り」への参加は中止としました。「WITHコロナ」で制限緩和が進む状況と医療現場では温度差がある事は否めませんが、地域包括ケア推進に向けた取り組みは重要です。ちょうど第8波に入った11月18日に今年度初めての「看護管理者ネットワーク会議」をハイブリット形式で開催いたしました。病院、訪問看護ステーション、施設、地域包括支援センターそれぞれの現状を聞かせていただく機会となりましたが、地域で活動される看護職の方のご苦勞や病院との違いも知る事ができました。今後も日頃から双方向での情報交換や連携が取れる関係作りを目指して看護管理者のネットワーク強化に取り組んで参りたいと思います。

支部だよりが発行される時は新たな年を迎えていると思います。様々な課題はありますが役員・委員一同協力しながら支部活動に取り組んで参りたいと思いますので、会員の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

活動報告

「仙台南支部・仙台東支部合同研修会の報告」

仙台青葉学院短期大学
小倉 真紀

令和3年度 仙台南支部・仙台東支部合同研修会が、令和4年3月22日に宮城県看護協会会館にて、友納理緒先生（前公益社団法人日本看護協会 参与 看護師・保健師・弁護士）を講師に招き、オンライン（役員・常任委員参集）で開催された。

「患者・家族からのハラスメント」のテーマでご講義頂いた。病院・訪問看護ステーション・保健施設・福祉施設等で働く中で誰もが経験し、危機を身近に感じる内容の事例が多くあり、研修会後のアンケート結果も今後活用できる内容だったと高評価を得た。

法律上で訴訟になる以前に看護職として、できる限りの対策を講じながら日々職務に追われているが、対人間である以上関わりの中で小さな誤解や情報の拗れが大きな問題につながってしまう危険性は誰にでもある。研修会の内容を少しご紹介する・・・患者・家族に個別に対応するとき、特別扱いの誤解が生じないよう、他者に見えすぎないようにすることも大切であること。また、対象者からの訴えを聞く場合は、座っていただく、全体を見て、目や耳を使って相手の話をよく聞き、話を最後まで聞くこと、相手の主張をすべて出し尽くさせることが大切である。要求への対応として、できること・できないことを伝えることが必要で、できないこともポジティブな言い方（〇〇まではできます）というような言い方が有効とのことだった。一人の職員に過度なストレスがかかることを避ける、過度な負担が原因で不適切な対応が行われることを避けるなど組織としての取り組みも必要であるとのことだった。これらは看護職が日ごろから意識的に行っている対応ではあるが、多忙な業務の中で今一度自らの患者・家族への対応の仕方を振り返り、小さな歪みが大きな問題にならないよう気をつけていきたいと気持ちを新たにした研修会であった。



事業報告

「第1回看護管理者ネットワーク会議」

若林区保健福祉センター
畑山 明美

11月18日（金）に新型コロナの感染対策について、医療や介護施設等現場からの情報共有や意見交換などを目的に、看護管理者ネットワーク会議を開催しました。現在の感染拡大に伴いzoom併用のハイブリット方式で実施しましたが、会場には宮城県看護協会石井会長のご出席をいただき、業務ご多忙の中、医療機関・訪問看護ステーション・介護施設・地域包括支援センターなどの21名の看護管理者の方々にご参加いただきました。

石井会長からは看護協会の役割、看護職の処遇改善の重要性、オンライン研修会やHPの拡充などについてご説明いただきました。

JR仙台病院感染管理認定看護師の加藤佳奈さんからは「感染拡大防止のポイントについて」、重要なポイントの一つとして換気による有害粒子の除去やリスクの高い看護手技（吸引、食事介助など）におけるゴーグル装用の有効性など話題提供していただきました。

その後3グループに分かれて「コロナ禍での各施設における現状や課題について」をテーマに意見交換をしました。最前線の現場で感染拡大防止のため、施設のマイルールを決め、必要物品の確保、職員自身の自己防衛など今でき得る対策をとっている日々の業務などの意見が出ました。中にはフル装備で対策を講じても感染した事例、患者情報が少ない中で行う訪問業務、N95マスクなど必要な物品が入手困難など、リスクと背中合わせの切実な声もありました。発生届出方法の変更や旅行支援の開始など、地域の人々と医療・看護現場との温度差への戸惑い、本日の内容を他のスタッフにも共有したいという声など、数多くの意見共有をする機会となりました。

医療・介護現場は気の抜けない季節を迎えております。ぜひご自身の施設・職場で情報共有いただき、厳しい日々を仲間の方々と乗り切っていくことを切に願っております。

